



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「世界とともにワイズメン」
- アジア会長主題 「100年を越えて変革しよう」
- 東日本区理事主題 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
- あずさ部部長主題 「道を拓く～愛と協力によって」
- 東京西クラブ会長主題 「わからないこと、言いたいことは、何でも声に出しましょう！」

2021年11月号

NO 542

エルサレムの広場には、再び、老爺（ジイサン）、老婆が座するようになる。それぞれ、長寿のゆえに杖を手にして、都の広場はわらべとおとめに溢れ彼らは広場で笑いさざめく。
新約聖書ゼカリヤ書8章4節・5節

人と人をつなぐ人

吉田 明弘

在京クラブ新年会を1月8日(土)に行うとの知らせがホストの東京むかでクラブから届きました。早く「顔を合わせたい」「話し合いたい」という皆の想いに応えてのことでしょう。

この在京クラブ(ワイズ)新年会は、私の記憶では、1967年に初めて東京韓国クラブの主催で行われました。仕掛け人は、同クラブのスポンサー、東京山手クラブの奈良信さんでした。東京韓国クラブは、その前年にチャーターしましたが、他のクラブと交流が進まず、東京韓国YMCA会館を訪れる日本人も限られていたことから、孤立していました。

奈良さんは、当時在京ワイズメン同士も一堂に集まる機会がなかったのが、けしかけたのです。元々実力のある東京韓国クラブはこれを受けました。

当日、ホストクラブのメンバー、メネット、コメントは民族衣装、チマ・チョゴリと手作りの朝鮮の正月料理で迎えました。

圧巻だったのは、全員が参加して楽しんだ韓国双六「ユッ」でした。明るく、大きな声で喜んだり、大袈裟に嘆いたりするホストクラブに引き込まれて、全員が夢中になり、笑顔になりました。

私は入会して1年目でしたが、仲間の輪に入れない人を、招待したり、激励するのではなく、むしろ逆に相手にサービスしてもらうことで、同等に打ち解けるといふ智慧に驚かされました。

後に奈良さんは、さまざまな分野で貢献された方に毎年贈られている賞を受賞されました。それは、仕事である建築においてでした。しかし内示を受けた時、「ワシは建築でもらうのは、いやや、もらえるなら、『人と人を結びつけた』ことでもらいたい」と言われ、主宰者も認め、顕彰文を東京YMCA理事長の徳久俊彦さんが書かれたそうです。これは奈良さんから直接うかがった話です。

コロナが今後どうなるかは、私たちには予測もできませんが、こ



「もういいかい?」「まあだよ!」
WHOウォーキング
写真は、神田川水源のある井の頭公園

の2年間、それぞれが経験し、学んだことの影響を受けるでしょう。例会やコミュニケーション、活動についても大小の意見の違いや対立も起こるかもしれません。しかしそれは避けずに受け止めましょう。これまでワイズは整然であることを求めて、それが実現されてきています。それが勢いを削いでいるようにも見えます。

コロナ禍を好機として対立や分裂を恐れないで前に進むこと、そのためには、「人と人をつなげる人」がどうしても必要なのです。

クラブ役員

- 会長 鳥越 成代
- 副会長 吉田 明弘
- 書記 本川 悦子
- 会計 石井 元子
- 担当主事 横山 弥利

10月の記録		ニコニコ	5,000円
在籍者数 12人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	— 円
出席者数 9人	コメント 0人	ファンド残高	113,308円
メーカーシップ 2人	ビジター 2人	ホテ校ファンド	16,000円
出席率 100%	ゲスト 1人	ホテ校残高	23,200円
内Zoom参加 0人	出席者合計 14人	WHO参加者	— 人

11月例会のご案内

今月の強調テーマ：ワイズ理解、ファミリーファスト
ASF(創立者を記念する基金)

今月の例会は、通常の例会形式に戻ります。

卓話は、長年地元の小中学生を招き、神田川の成り立ち、沿岸の人々の暮らしの移り変わり、江戸文化、環境問題、自分たちの町について船からの学習を応援している『神田川船の会』の活動について、会を主宰している、私たちの仲間、東京グリーンクラブの布上征一郎さんから映像を交えてお話しいたします。

ご期待ください。

*マスクを付けて御来会ください。

日時：11月18日(木) 18:45~21:00

会場：ウェルファーム杉並 4F集会室

杉並区天沼 3-19-16

会費：1,500円

担当：A班(石井・高嶋・吉田)

開会点鐘

いざたて

聖書朗読・感謝

開会挨拶・紹介

会食

卓話「小学生の歓声が励み、神田川船の会」

東京グリーンクラブ会員 布上征一郎さん

諸報告

YMCA 報告

ニコニコ

HAPPY BIRTHDAY

閉会点鐘

受付：吉田 明弘

司会：高嶋美知子

会長 鳥越 成代

一 同

吉田 明弘

会 長

鳥越成代会長

各担当者

一 同

鳥越成代会長

次期クラブ役員選出が話題に -10月事務会報告-

クラブ事務会が下記のとおり
に行われました

日時：10月28日(木)

17:00~18:45

会場：ウェルファーム杉並 4F

出席者：石井、篠原、高嶋、鳥越、
本川、吉田

<報告事項>

- ①9月の月間報告が行われた。例会出席率は今年度メイキャップを含め100%が続いている。
 - ②10月16日のあずさ部部大会(Zoom)への参加が2人だったことは残念であった。
 - ③来年1月8日(土)に行われる在京クラブ新年会について、ホストの東京むかでクラブから提案の要請があった。
 - ④東日本区から、次期クラブ役員リストを提出するように要請があった。
 - ⑤例会、事務会の定例会場のウェルファーム杉並の使用規制が解除され、感染予防に留意して従来通り行えるようになった。
- <協議事項>
- ①11月例会は、卓話を東京グリーンクラブの布上征一郎さんに同クラブの事業「神田川船の

会についてお話しいただく。

- ②12月例会、1月例会は、それぞれ担当班が企画する。
- ③2月TOF例会は、パキスタンで奉仕活動を行っている、岡部明子さんに卓話をお願いする。
- ④3月例会は例年東京世田谷クラブとの合同例会であるがコロナのため2年間中止をしている。先方に問い合わせる。
- ④例会時間が超過気味になり、閉館時間までに退出できない。クラブメンバーは時間を意識して発言する、あわせて例会前に可能な人は準備のために早めに来館するように申し合わせた。
- ⑤10月例会では、卓話者が公務員であるために謝礼を辞退された。卓話依頼の際に事前に謝礼についても話し合っておく。併せて、クラブの卓話者謝礼規定、外部講師1万円、ワイズメン5千円を確認した。卓話に用いる資料の印刷代、機材搬入料などは事務会で協議する。
- ⑥次期クラブ役員選出は、今回はそれぞれの事情説明が話され、具体案は出ず前哨戦に終わった。11月事務会で協議する。
(書記・本川悦子)

卓話者紹介

布上 征一郎(ぬのがみ・せいちろう)
さん

東京グリーンクラブの官房長官と言えば誰でも納得する。2001年入会、2006-2007年度。東日本区事務局長を務める。東京神田の印刷業店4代目、印刷関連会社に勤務した。高校生時代の同級生7人をワイズに勧誘。当クラブブリテンのワイズインタビュー(2017年11月号)に登場していただいている。

神田川船の会

1973年にチャーターした東京グリーンクラブが1979年に始めた地域奉仕事業。毎年春秋に船を借上げ、神田川の清流復活、護岸、緑化環境整備を願って川からの見学会を実施。1984年からは子どもたちに川から、江戸の文化、街づくり、自分たちの町を見せたいという思いから地域の小学生を毎回360人を招いている。案内はクラブメンバーが研修を受けて行なっている。1997年、東京都から環境賞を授与された。



東京オリ・パラ裏方奮闘記 -10月クラブ例会報告-

10月例会は10月21日、リアル例会で行いました。東京2020大会で東京都職員として、裏方の大会輸送を担当された竹倉真也さんからお話をうかがいました。大会準備や大会時の様子を写真などで詳しく説明してくれました。

築地市場跡地に設置された車両基地（築地デポ）の整備担当。大会時には、大型バス約800台と乗用車約1,500台を収容。整備に向けて、地元の理解、市場移転、解体工事など多くの課題がありました。関係者で連携して予定通り大会前に完成することができたそうです。

環状2号線の選手村周辺の交通対策も担当。大会時にセキュリティフェンス等に囲まれた閉鎖空間となり、大会関係車両以外は自由に出入り出来なくなります。歩行者、自転車などへきめ細かな配慮や市場関係車両の通行ルートの確保など、警視庁や市場関係者、地元に対してねばり強く調整を重ねたそうです。

オリンピック時は、築地デポ内に設置したオペレーションセンターや大会関係者が宿泊しているホテルで、乗降場管理や配車管理を担当。システムトラブルもあり、苦情対応や予約対応に追われたそうです。パラリンピック時は、学校連携観戦のバス乗降場の管理運営を担当。子供達の笑顔が見られ、現場に活力が生まれたそうです。

最後に、スタッフやボランティアで多くの若い人が大会を経験できたことが未来へのレガシー

につながる。コロナ感染者が多い逆風の中、前に進めて開催し、アスリートの活躍を見ることができ、沈んでいる世の中に勇氣・元気・活力を与えることが出来たのではないかと大変なお仕事を語って下さいました。ちなみに竹倉真也さんは篠原文恵前会長の娘婿に当たる方です。

(村野絢子)

あずさ部大会もZoomで

10月16日(土)午後、東新部、関東東部大会に続き、第25回あずさ部憩いの森部大会もZoom形式で行われました。ホストクラブは東京八王子クラブ。

第1部は式典、司会はあずさ部書記・久保田貞視さんによる進行で、長谷川あや子部長、山本英次クラブ会長の歓迎挨拶に続き、東京YMCA総主事・菅谷淳さん、東日本区理事・大久保知宏さんから画面を通して祝辞を頂き、すぐに記念講演として並木真さんの「Do You 農? - タネと野菜のエトセトラ」が始まりました。

とちぎYMCAで参加したワークキャンプで初めて農業に触れ、種苗会社に入社し、現在は栃木県の本社でご活躍なので、種苗会社の営業内容から実際の野菜育成のミニ講習がありました。Zoom形式の長所は、映像が鮮明で音声も明瞭。沢山の資料によって内容が分かりやすく伝わったと思います。閉会点鐘の後休憩をはさみ、第2部は花輪宗命(東京八王子)元会長の司会による懇親会。出席者は他部からの参加を含め74人とのこと、すっかりZoom会議に慣れた参加者たちの会話が弾みました。次期あずさ部長・後藤明久さんの挨拶、クラブ紹介、事業主査からのアピールなどで予定の2時間で終了。東京八王子クラブのチーム力は素晴らしく、今後のZoom会議のお手本となるような見事な演出でありました。当クラブからの参加は本川、篠原の2人でした。(篠原文恵)

■今月の「YMCA TODAY」は担当主事の横山弥利さんが日本YMCA 同盟主催のスタッフ研修に参加中のため、元担当主事の小畑貴裕がご報告をいたします。

■コロナ感染症の影響により東京YMCA 主催の多くの活動が影響を受けてきました。そんな中、9月以降は感染症対策を万全にし、参加人数を制限しながら、通常のプログラムを徐々に再開をしています。特に東陽町と山手で実施をしているプールのプログラムには、それぞれ昨年の同時期より100人以上の子ども達が水泳教室に戻ってきました。

■YMCAの真骨頂である、冬のスキーキャンプも、この冬は再開予定です。こちら感染対策に注意を払いながらの実施となりますが、お問い合わせが多くなってまいりました。楽しみに待っている子ども達のためにも、無事に開催できることを祈るばかりです。

■国際ホテル専門学校就職活動状況です。緊急事態宣言の解除以降、少しずつ活を取り戻し始めました。先月末よりも15ポイント改善し、現在の就職率は約80%となりました。まだ頑張っている学生達をスタッフ一同でサポートしてまいりたいと思います。先日、奨励金を頂きました、コロナ君も無事内定を頂きました。六本木にごぞいます超高級外資系ホテルへの就職です。皆様のお支えにあらためて感謝申し上げます。

■今年も「ソシアス2021」を開催いたします。『YMCAの会員活動の活性化に向けて』をテーマに会員、職員が話し合い、会員の関わりやすい仕組みを共に考える機会にしたいと思います。

日時：2021年11月13日(土) 10時～12時30分 会場：東陽町センター及びオンライン(Zoom)のどちらかを選べます。費用：無料。申し込みは東京YMCA会員部まで。

(担当主事代理 小畑貴裕)



—ご自身もお姉さんもミッションスクール出身。お名前からもクリスチャンホーム育ちですか。

「クリスチャン 4 世です」

—お生まれは。

「東京です。1949 年に現住所に住む前は北区滝野川、鎌倉、杉並区西荻に住んでいました。

—どんな子どもでした。

「身体も性格もひ弱で、家の中で少年少女向け小説や理科の本を読んでいました。あき・れいじ著の『勉強まんが』から得た知識は今でも役に立っています。近所のガキどもと夕方遅くまで泥だらけになって遊ぶようになったのは小学校 4 年生以後でした」

—小学校は、軍国時代でしたね。

「集団疎開に参加しなかった近隣の 1 年生から 6 年生 10 人くらいが民家で寺子屋式授業と称してやった勉強らしきことが楽しい思い出です。それも閉鎖となり、三重県津市に疎開、小学校(国民小学校)に編入。初日に近くの海岸の砂浜でクラス内の相撲大会があり全敗しました。クラス担当教師はその日限りで応召したので顔も名前も忘れていましたが、その後『また津へ来い。角力でもんでやるよ』なる手紙をいただきました。たった一日だったのに」

—得意の学科、嫌いな学科は。

「好きだったのは数学、化学、物理。嫌いなのは文系学科でした」

—教会へはいつから。

「初めは母親に連れられて鎌倉の教会の日曜学校幼稚科に。高校

1 年のクリスマスに現在も通う弓町本郷教会で受洗しました」

—クラブ活動は。

「小学校では算術クラブ、中学では理科部でした」

—大学も理科系ですね。

「漠然と石油化学技術者になりたいと思っていました。しかし界面化学に興味を覚え、結局その応用分野に就職しました」

—最初の仕事は。

「研究部で、品質管理ための試験方法の標準化でした。その後、特許業専門部署の創設を提案し異動しました。兄弟会社との合併後も特許、実用新案、商標、意匠の担当部門でした」

—パートナー雅子さんとは。

「彼女は、同期入社、研究部研究課に配属され、課は違っていました。毎日顔を合わせていましたし、昼休みには他の同僚たちとカード遊びなどしていました」

—クラブ入会は、1985 年ですね。

「そうです。クラブの山田利三郎さんが会社に来られ、ワイズメンズクラブの紹介と入会の誘いを受けました。その頃には会社業務も余裕が出来ていましたし、社会的奉仕にも関わりたいとも思っていたので、その場で入会を表明したと思います」

—当時、神谷さんのお宅から徒歩 20 分位のところに東京 YMCA 杉並センターがありました。

「YMCA は子どもの時から知っていましたが、センターが近所にあると知ったのは、YMCA のスタッフの毛利俊雄さんが同じ教会にいて、『へえ、神谷君がワイズメンズクラブに入会したの？意外だなア。東京 Y の杉並センターが君の家の近くにあるよ』と言われた時でした」

—1998 年に杉並センターの事務所を閉鎖して 20 年以上になりますが、一番の思い出は。

「やはりバザーですね。餅つきを初めて体験しました。それから中学生の阪神淡路大震災復興ワークキャンプに夜行バスで一部

参加したことです」

—ワイズ日本区が東西に分割し東日本区となり、事業主任が国内担当、国際担当の 2 人制になって 3 年目、国内担当事業主任をされましたね。

「事業主任の 2 人制などクレイジーだなどと言われていました。仕事を区から部に委ねるという趣旨でしたが、あまりにも何もしなかったことに、今でも反省しています。区の仕事は日本区時代に会計、その後、11 代目のあずさ部長を務めさせてもらいました。ワイズのことを深く知ることが出来、また多くの方々とご交誼できたことは感謝でした」

—神谷さんは、誰かに役を頼もう、と言う時に真っ先に手を挙げられますね

「肯定するも否定するも速やかに決断したいと思っています」

—仕事を退かれてから、地域の奉仕活動をやられてきましたね。

「自分が先頭に立って実行することは性格的にできないので、他の奉仕団体に参加することで思いを満たしています」

—役員をされているのが、3 団体、定期的会費を納めたり、臨時に寄付される団体が 7 つも。

「そうですね」。

—クルマはお好きですね。

「ええ。3 年前に水素燃料で走る車を買いますが、これは失敗。まだ燃料ステーションが少ないのです。400km しか走れませんから、今は東北方面には行けません」

—コロナ明けのワイズの突破口は。日本のワイズに求めるものは、なんでしょう。

「やはり皆が集まって顔を会わせて何か奉仕作業を共同で行うことではないでしょうか。「人類の幸せ追及精神(即ち社会奉仕精神)が求められているのではないのでしょうか。この涵養のためにも実行のためにも仲間を増やすこと(会員増強)であると思います」

—ありがとうございました。(吉田明弘)

ふりかえり ワイズインタビュー 来月で100人目

連載中の「ワイズインタビュー」の来月号に、100人目が登場されます。2013年7月から、1クラブの企画に快く協力いただいたことに感謝して、振り返らせていただきます。

(吉田明弘)

ワイズの魅力は、人の魅力

私がワイズメンズクラブに入った時、なんでこんなに魅力的で面白い人が大勢いるのに、どうして印刷物に魅力がないのだろうかと思ひました。もっと「物語」を載せれば良いのにと歯がゆく思っていました。当時は会員が接する媒体は、「日本区報」と「クラブブリテン」でした。

滋賀蒲生野Cの「リレー随筆」

1991年に滋賀蒲生野クラブがブリテンに連載で『ワイズの輪』を始めました。これは、全国のワイズメンが執筆者となり、書いた人が次の執筆者を指名する方式です。「これは凄い」と思いました。でも、まさかマネするわけにはいかない、それに推進している井之上温代さんの心くばりを聴くと、とてもムリ。インタビューなら出来るかなと思ひました。でもインタビューとなると最少で1ページが必要です。毎月はこのスペースはもらえません。『東京西・株式市況』、『ひとことワイズブリー』などメンバーに焦点をあてた小欄を書いていた。

「1ページは責任をもちます」

2013年5月の事務会で状況が変化しました。当時、4ページ立てか6ページ立てで発行していましたが、4ページはムリだという意見がでました。たしかに記事の足りない傾向が続いていました。でもクラブには長い文が書ける(逆にいうと短くは書けない)人が揃っていましたから、4ページでは必要記事が入れ

られない、5ページならピタリですが、紙印刷の場合は奇数ページだと白紙の頁が生まれ、半製品のようにになってしまうなどと反対が出ました。結論が出そうもないので、じれて、「毎月1ページ分ならを埋めますよ」と発言してしまいました。この時にインタビューと言ったかどうか忘れましたが、1ページは楽に埋められるかと思っていました。

第1回は、木原洸新会長

掲載は、7月の新年度号から、登場人物は、東日本区のメンバーと決めました。第1号は新会長の木原洸さんに頼みました。本人からは、いろいろ話を聞いていたのでストーリーが描けるし、彼にはワイズの中で早く顔と名を売って大きな仕事をやってもらいたいと願っていましたから。

木原さんとは所沢のティーRで

6月27日(木)にWHOウォーキングの下見を終えて、所沢駅駅舎のティールームでインタビュー。木原さんはすらすらと無駄なく話し、私もメモを取りませんでしたから、同伴した篠原文恵さんは、インタビューとは気づかなかったでしょう。家に帰って、すぐ対談形式にまとめ、その日の夜の事務会で示して、「まあ、やってみろ」ということになりました。この時木原さんは「大人になったらやりたいこと」の問いに「外交官か落語家」と答えましたが、校正で「外交官か新聞記者」になっていました。

「話すことなんて何もない」?

木原さんの後は、大野貞次さん、本川悦子さん、小山多喜子さんとクラブ三役が続いてくれました。最初は、「私なんか話すことなんて何もない」と言われましたが、もう一押しすると引き受けてもらえました。何もないどころか、考えてもいかなかった話が次々に出てきました。実は、最初はうまくいくかどうか分からないの

で、身内から始めたのですが、おかげでお願いの仕方、話題の引き出し方など、要領がつかめて、これなら他クラブの方にも広げられて、続けられると自信がつかしました。

申し訳なかったのは、クラブからは3カラム分のスペースをもらっていたのに、最初の3人には、遠慮して2カラムしか使わなかったことです。多分この1カラム分はその人にとって中身の濃い部分ですから、やり直したい気持ちを今も持っています。

誰にお願いするかのルール

始めて2年ぐらい経つと、読んで声をかけてくださる方が出てきました。そして「どうやって人選されるのですか」という質問が多く、これが一番答えに困りました。大変不遜な言い方ですが、選ぶ基準はなくて、選ばない基準を決めているのです。

たとえば、「平成名ワイズ列伝」とか「昭和ワイズ百傑」といったものを目指しているわけではありません。そういうものが企画されても面白いと思いますが、それは、1クラブ、1個人がまとめるものではないように思いました。ですから東日本区に名誉理事という制度があれば、当然推挙されるであろう、奈良信さん(東京山手)、竹内敏朗さん(熱海グローリー)をはじめ、尊敬してやまない数々のワイズメンを意識して見送らせていただけてきました。

あえて言えば、その時々によつて気にかかるワイズメンというのが、私の基準といえます。「そんなことなら、わしゃ出んよ」とおっしゃられると困るのですが。

99回までに、休載が2度ありました。メンバーの逝去による追悼頁の企画などのためです。お願いして断られたのは3人、次号にも、この9年間のインタビューの仕方、お願いする方の対応、断られた方の事情、いつまで続けるのか、などを書かせていただきます。

私の大切な人

村野絢子

長崎の修道士—後編

ミロハナ神父が尊敬するコルベ神父は、信仰熱心な両親の許、司祭への道を選んだ。優秀な青年でローマ留学し、勉学と修徳のすえ、司祭になる。コルベ神父は、首都ワルシャワに、エポカラヌフ修道院を創設する。多くの修道士を募集し、新聞…ラジオを通して宣教を開始する。

彼は日本の殉教者にあこがれ、東洋の各国語でマリヤの雑誌を出す夢があった。長崎に着くとすぐ日本語で月刊誌を発行（中国・インドでも）した。日本滞在 6 年宣教活動をし、ポーランドに帰国した。その間に、エポカラヌフ修道院は、修道士 628 人・神学生 127 人（内大神・5）・司祭 13 人と大規模となり、コルベは院長に任命される。その成長の秘密は、それまでの常識を破り、司祭も修道士も同等に接し、生活も食事も差別をしない。平等にあった。

アウシュビッツで 1 人の逃亡者が出た。その時は

同じブロックの 10 人が餓死刑に選ばれる。そのうちの 1 人が「妻と子供がいます、孤児になるのは辛く残念です」と言うと、コルベ神父が進み出て「彼の代わりに私を選んでください。私はカトリック司祭で独身です」。17 日間水も食料も与えられない。地下室で、6 人が死に 3 人が意識不明コルベ神父は生き抜き、最後は毒針の注射で殺害された。1941 年 8 月 14 日、コルベ神父は 47 才だった。

コルベ神父の身代わりで救われたガヨヴィニチュック氏は 1995 年 3 月 13 日 93 才で死去した。彼の生前 1983・90・93 年と 3 回、小崎登明修道士は、自宅を訪ね、「原爆とアウシュビッツの悲劇を繰り返さないように」と、平和を誓い合った。

原爆で自分の弱さを知った少年は、神学校で学び、さらに病に苦しんだ後、殉教者 26 聖人の名をもらって小崎修道士となり、長崎のコルベ記念館で、殉教者コルベ神父の、自分を犠牲にして他人を助ける厳しい愛と生き方を若者たちに伝え続けている。

ス々のコンサート

鳥越 成代

会員になっている NHK 交響楽団の定期公演が、今月、久しぶりに開演となった。コロナウイルスの影響で、数か月間定期公演が休演でした。

事前に NHK から連絡があったのだが、その時の手紙に、1927 年の第 1 回公演以来、戦時中も続けてきた定期公演を休止せざるを得ないことは、交響楽団としても、苦渋の決断です、とあった。94 年も続いていることに、驚きました。

同時に思い出したことは、この演奏会に誘ってくれた同い年の友人の顔でした。誰もが知っている一流企業で働いており、当時 30 代前半だったと思いますが、すでに会社の役職についていました。現在でも女性の管理職は少ないといわれています。高校卒業後すぐに入社した彼女でしたので、驚きました。

彼女が、N 響の会員だったのですが、何とお父様に誘われて、会員となり、毎回 2 人で通っていました。

美しい愛娘と毎月コンサートに行ける父親というのは、どんなにかうれしい事だろう、とあっていました。ところが、その父上が突然亡くなられ、彼女が父上の席を私に譲って下さり、それ以来、私はずっと彼女とコンサートに参加しておりました。

ところがその 1 年後、彼女もまた、突然亡くなられ、母上と弟さんに、席をお返ししたのですが、娘さんと共に過ごした私が引き続くことになり、今は彼女とも親しかった友人と一緒にかよっています。

現在、NHK ホールは工事中なため、池袋の芸術劇場に行っています。何と座席が、最前列の中央、指揮者の真後ろです。

コンサートの席としては、歓迎されませんが、団員の皆さんの演奏姿がしっかり目に入りますし、それぞれの奏でる音がよくわかります。当然、指揮者は全く後ろ向きなので、表情はわかりません。今回演奏者はどうなさるのか興味がありましたのはマスクです。当然ですが、管楽器以外の演奏者は、マスクをしていました。

指揮者は、表情で伝えることも

あるのかなと思ったのですが、やはりずっとマスクをしていました。

指揮はスウェーデン出身のヘルベルト・ブロムシュテットで、演奏曲が「パール・ギュント」とドヴォルザークの「交響曲 第 8 番」となじみ深い曲でしたので、ゆったりと聞きながら演奏者達のマスクの上げ、下げの仕方も面白く、久しぶりにのんびり楽しい時間を過ごしました。

編集後記

「編集後記」というものは、編集が終わってから書くものなのでしょうが、私の場合はいただく原稿を待ちながら書いてしまいます。「編集前記」というべきでしょうか。ですから、いただく原稿の長さや、写真の良し悪しによって「中記」の長さを調節したり、書き直したりします。

今回は、村野絢子さんの「私の大切な人」に写真がなかったため、鳥越成代さんの随筆しだいで、もう一本新しい記事を考えなくてはならないと思っていましたら、なんと「どんびたり」でした。滅多にないことです。(AY)